

(様式6)

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年 7月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2874100502		
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		
事業所名	グループホーム まほろばの里		
所在地	兵庫県揖保郡太子町塚森125 - 1 (電 話) 079-275-1858		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成19年 6月13日	評価確定日	平成19年 7月11日

【情報提供票より】(平成19年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,380 円	

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	2	要介護 2		5	
要介護 3	2	要介護 4		0	
要介護 5	0	要支援 2		0	
年齢	平均 77.9 歳	最低 63 歳	最高 88 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	二ノ丸内科、たつの市立御津病院、太子病院、福島歯科、つだ歯科
---------	--------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

万葉古語の「まほろば」から名づけられたグループホーム「まほろばの里」の周辺は田植えを終えたばかりの田園風景が広がり、玄関先にはツバメの巣が見られるという四季折々の移り変わりを体感出来る環境となっている。併設のまほろばの里在宅介護センターにおいては太子町地域包括支援センター相談窓口事業受託・介護予防普及啓発事業介護予防教室受託と、太子町と連携し地域の大きな社会資源ともなっている。その中でのホームは、地域密着型施設として位置づけられ、親しみやすく、「ちょっと寄っていか」との憩いの場として根付いている。「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」が実践できる環境となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4) 前回評価におごることなく、サービス向上に取り組む意欲がある。地域に根付くサービスとしての広がりを運営推進会議の参加者メンバーからも感じ取れる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 管理者・職員全員で自己評価に取り組むことにより、拘束についての意識を再確認でき、テラスの完成につながっている。入居者がテラスへの出入りが自由に出来ることにより、心身ともよりゆったりとした生活ぶりとなったことが職員の言葉より聞き取ることができた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6) 過去4回の運営推進会議が開催されている。ホームの現状を報告すると共に、家族の意見や町担当職員より広報等の連絡があるなど、意見の交換が出来ている。又、会議の内容を職員と共有し、取り組む努力がされている。次回の運営推進会議では今回の自己評価の内容と今後の取り組みを話し合ってもらいたい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8) 家族への報告は訪問時に随時おこなわれ、又、定期的にお便りも発送して安心に努めている。運営推進会議や家族間の交流の場・ケアプラン作成時と家族の意見を聞く機会もあり、相談苦情があれば解決への取り組み及び運営への反映との積極的な姿勢がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3) 道路を隔てた向かいに公民館があり、職員が近隣の住民であつたりで地域との交流や連絡が出来やすい環境となっている。畑の手伝いや、料理作りのボランティアが来所しており、日常的に地域との交流ができています。出来れば消防訓練の際は地域住民に参加してもらい、相互の協力体制に努められることが望まれる。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 - 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来よりの「仲良く笑顔で歩こうよ」の独自の理念が掲げられている。地域の老人会の方々との交流や併設のデイサービスの利用者との集いを通じて、地域の中で暮らしているが、地域密着型サービスとして現状にあった理念への検討に至っていない。	○	制度改正により、「家庭的な環境の下で」が「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」と表現が改められたのを機会に、例えば「地域の方々と仲良く・・・」とか、何か地域生活を柱とした理念に、検討されるのはいかがでしょうか。
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み - 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	従来よりの理念を、運営規定と重要事項説明書に掲げると共に職員も共有しており、実践に向けての取り組みもされているが、地域密着型サービスの意義への着手に至っていない。	○	地域生活を柱とした理念が出来れば、すぐに取り組める実践力が期待できます。
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい - 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会、保育園、小学校の行事に参加することはもちろんのこと、入居者の散歩の時間を小学校の下校時に合わせて行う等が実施されつつあり、地域との付き合いが積極的に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 - 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員全員で自己評価に取り組んでいた。入居者のペースに合わせての介護や、拘束の意識付け等を再認識することにより、サービス向上に繋がっている。テラスへの出入りが自由にできるようになったことが、入居者にとって良い影響となった。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、地域住民代表者、民生委員、太子町さわやか健康課職員に参加していただいている。過去に4回の運営推進会議が開催されている。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者には運営推進会議に出席してもらっている。町からの広報等の連絡もある。制度改正で地域密着型サービスに位置づけられ、入居やデイサービス利用（認知症）が地域に限定されることも相談できる機会となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に入居中の暮らしぶりを話している。他に3ヶ月に1回状況を伝えるお便りを郵送している。しかし、家族の希望もあり、お金は立替払いとなっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との交流会を開いて、意見を聞いている。次回はバーベキューを予定している。ケアプラン作成時にも意見を出してもらい運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の場合は、日常的に行き来し顔馴染みとなっている併設の特養からの異動が多く、スムーズな支援ができている。2月から配属になった職員もいたが、入居者は混乱なく過ごされている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	18年には、2名が認知症実践者研修を受講済みであった。3月に、看護師が外部研修を受講しており、今後も「ホームでの看護師の役割」に関する研修受講に意欲を持っている。又、介護職員の方は「ホームにおける認知症対応」の研修受講に意欲がある。	○	休憩時間にケースカンファレンスが行われているが、職場内研修が今後の課題である。介護職員・看護師と職種により希望する外部研修と共に平行して内部研修を実施し、一層の職員のサービス向上を目指してもらいたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として他法人との交流や研修等はあるが、過去において、ホーム同士の交流は行っていない。	○	他に2ホームあるため、互いの見学会から始められることを期待したい。交流を通じて事例検討会等にも発展し、サービスの質の向上に繋げてもらいたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに入居する方としては、併設の認知症対応型デイを利用されていた方の入居が多く、馴染みとなっている。事前にデイを利用することや、ホームでのおためし体験の体制もあり、本人の安心を図る工夫がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜悲哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の場面では、人生の大先輩である入居者から教えてもらうことが多い。特に食事作りの場面では顕著である。場面、場面で今まで体験してこられた思い出話をしながら喜怒哀楽を共感している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	休憩時間にカンファレンスを行い、思いや意向を検討している。特に意思確認できない入居者については日頃の行動・性格・くせを職員で共有し、本人本位に努めている。	○	入所前の生活歴の把握のため、複数の家族よりの聞き取りを行い、今後の生活へのアプローチとしてもらいたい。本人にとってどのように暮らすことがベストであるかを、日頃から話し合い重度化となった場合にも備えてもらいたい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	栄養士を交えた担当会議の記録、サービス計画書、ケアプラン確認書がある。担当会議には家族が参加したものがない。参加を呼びかけるなどの働きかけは行っている。	○	担当会議という形にとらわれず、ご家族の方の真意を汲み取り、より本人本位のケアとなるプラン作成に努めてほしい。
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は1ヶ月ごとにモニタリングをし評価表に記録されている。6ヶ月での見直しと、現状に即したケアは行われているが、新しい計画の作成と記録をするまでに至っていない。	○	ご本人の状況に合わせて、現場での気づきや意見を生かし、臨機応変な見直しを行い新たな計画を作成して欲しい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、緊急な受診への対応ができる体制が整っている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の内科医に2週間に一度往診してもらい健康チェックをしている。希望によりかかりつけ医への受診にも応じている。通院には移送サービス、家族による通院介助で対応している。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化に関する指針」が作成されており、利用者や家族の方、職員で方針を共有している。一方、自立した生活が出来なくなった場合は退去の条件として挙げられており、自立の支援に重点を置いている。	○	現在は家族の希望もあり、重度化された時は併設施設に入所されている。今後、ご本人や家族が重度化してもホームでの生活を希望されることも想定される。最大限の支援方法を考え、方針を話し合って欲しい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけは穏やかで、プライバシーを損ねないよう配慮されている。居室に入る際も必ずノックをすることなど心がけている。又、ボランティアの方にも個人情報の保護の理解をしてもらっている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、ゆったりとした介護が行われている。食事に時間のかかる方もあせらずゆっくり召し上がってもらえるよう気を配っている。		

第 三 者	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月3回、昼食作りの日が設定され、皆で献立を考え調理をする。味付けの工夫など職員が教わることもある。他の日は栄養士が献立をし、施設で調理したものが届き、それを一緒に盛り付けている。月1回、外食の機会を設けている。	○	調理は脳を活性化させるという。昼食作りの日を少しでも増やせるよう検討してほしい。夏にはバーベキュー大会が予定されており家族の参加も呼びかけビールも出る。今から楽しみにされている。
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金が入浴日となっているが、希望があればいつでも入浴できる。ゆったりとしたお風呂なので仲の良い方と二人で入浴されることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	みんなで一緒に作業するのではなく、一人ひとりの役割を大事にされている。得意分野を把握し、洗い物、掃除、花の水やり、洗濯物を畳むなど日々の仕事を楽しむ支援ができています。		テラスの前に畑があり、土に馴染みのある方は草ぬきをされるなど、育てることを楽しまれている。畑で育てた野菜の収穫、その野菜を使った料理が楽しみである。
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、月1回の外食、スーパーへの買い物は全員参加で楽しみにしておられる。週1回のおやつは希望者2人くらいと職員で行く。山や海を見にドライブに出かける機会もある。	○	買い物など外出の機会も多く、よい気分転換になっている。せっかくの買い物の機会に、お金を利用者自身で支払う工夫を検討してほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は出来なかったテラスからの外への出入りが可能になり、玄関から出て行かれることが少なくなった。職員の欠員がある時の入浴時のみ目が届かなくなる為、一時的に施錠しているが職員の鍵をかけないケアへの意識は強い。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年3回実施している消防訓練では火元をグループホーム、特養、デイと3箇所の想定をし、それぞれの避難経路を考えて行っている。	○	災害時は地域の人々の協力も欠かせない。避難訓練に参加してもらうなど働きかけをして欲しい。又、非常用食品や備品の貯蓄の検討が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は生活リズム表の食事量の項目があり、毎食の記録がされている(5段階)水分量のチェックはしていないが発熱時や食事量の少ない時などは看護師の指導により個別に対応しケアが行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの2面がテラスに出られる作りとなっており、開放的な気分になれる。心地よい風の通りがあり、明るい雰囲気がある。テラスからはみんなで植えた花や近くの田んぼが見え、季節が感じられる。手作りのあじさいの絵が飾られていた。		玄関前の中庭のスペースにはデッキチェアが置かれ、周りに季節の花が手入れされ、くつろぎの場所となっている。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと物入れは備え付けだが、その他に整理タンスやテレビなどが持ち込まれている。特に持ち込みの制限がなく、タンスの上などに写真など好みのこまごました物が飾られている。カーテンは居室によって色を違えており、それぞれの居室としての特徴を出す配慮がされている。		

 は、重点項目。